



第6回チャイルドライン全国フォーラム IN 千葉

期日:2009年11月21日~22日(日)

場所:OVTA (千葉市海浜幕張)

“心の居場所”として子どもの声を受けとめるチャイルドライン活動は10周年を迎え、次の10年へ向けて、豊かな話し合いが千葉で行われました。

しながわチャイルドラインからも、このフォーラムに6人が参加しましたので以下、簡単に報告いたします。

事業内容:●チャレンジド・ミュージカル「サバンナ! SAVANNA!

●基調報告 清川輝基氏

●記念講演「自己肯定感は何で育たないか、どうすれば育つのか」

●シンポジウム「子ども支援のカタチを考える～地域のつながりは社会をかえるうねりをつくる～」

●分科会 ・子どもについてかんがえよう

・NPOの社会的使命とチャイルドラインの果たす役割

・守秘義務と子どもの声の社会発信

・チャイルドラインデーターをどう読み解くか

・性の電話を受けとめる 等

参加者: ミュージカル800名・講演会440人・分科会248人・レセプション130人・全体会220人

☆ ♪チャレンジド・ミュージカルV♪

障害のある人もない人も、子どもも大人も一緒になって創られたオリジナル・ミュージカルで出演者100名のパワー溢れる舞台、アフリカの草原が目に見えよう♪♪ダイナミックな太鼓の音に導かれたさまざまな動物に扮した子どもたちのダンスと歌声は圧巻は素晴らしい! 生きていることの素晴らしさを謳いあげ感動!

☆ 明橋大二氏記念講演 「自己肯定感は何で育たないか、どうすれば育つのか」

精神科医で児童思春期精神医療も担当され、小学校スクールカウンセラー、児童相談所嘱託医、などで子どもたちに関してこられた中で日本の子どもたちの自己肯定感の低さの問題を指摘され「自己肯定感が何故低いのか、どうしたら育つのか」をわかりやすく話されました。

◎「学力」「しつけ」が大切とされているが実は「私は大切な人間・私は私でいいんだ」という「自己肯定感」が子どもの心の成長の土台。虐待やいじめを受けた子は自己評価が低い。

◎子どもに関する具体的な対応として

1) 子どもが小さい時はスキンシップ・・・存在価値・大切さ・私は私の肯定感

2) 話をよくきく・・・能動的な聞き方「苦しかったんだね」「そう、疲れたんだね」

3) 子どもの頑張りを認めてねぎらう。・頑張れより、頑張っているね

4) ありがとう・・・相手の存在価値を認める言葉「ありがとう、助かったよ」等

◎ 子どもが地域の、国の宝ならば、育てているお父さんお母さんも宝であるはず。皆で支え、応援していきましょう。「子どもたちは明るく元気が一番と、大人は思い込んでしまいます。でも、本当は、子どもは小さくって、弱いものなのです。子どもたちの痛みを分かち合うのが、大人の役目だと思います。」と結ばれました。

(報告 Y・K)

★「チャイルドラインのデータをどう読み解くか」分科会 参加 34名

講師 武蔵大学社会学部メディア社会学科准教授 粉川一郎 氏

情報とは一ある特定の目的について適切な判断を下したり、行動の意思決定をするために役立つ資料や知識（大辞林）そのために、データをいかに活用していくかという内容。

粉川先生の話は、データという宝の山を、ただ眠らしておく手はない。各団体が継続的に受けている電話の内容を、それぞれ気になる部分をピックアップし、なぜそういう数字がでているのかを検討し、読み解く作業をしていくことが大事。

●データを根拠にした情報は人を容易に信じさせる説得力がある

●データを根拠にすれば人は動く

- 1) 印象的に訴えられるかどうか
- 2) 上から目線で話を持っていったらダメ！
- 3) ひたすら頼む・・・データを活用し情報を作り出しても、座っていてもダメ！コミュニティに出て行く。

そして、活動の未来を見据え「社会を変えていく力にしてください。」

(報告 Y・T)

★「性の電話」分科会 参加 35名、

支援センター 山口さん 安達さんの話を受けて皆で問題を共有どのラインも性の電話に悩んでいる。

一つの問題として捉えられないのは受け手、支え手、共に性教育をしっかり受けて育たなかった為、性の問題はオープンにしないと心の奥底から湧いてくる気持ちがある為聴けない。

《心に残った言葉》

① 「性の問題と特別視するのでは無くいじめ、虐待、不登校等と同じ一つの問題として聴く」

② 聴けない電話を解ったふりをして聴くのは問題

③ 理解は出来ない共感することも出来ないが聴くことと一緒に考えることは出来る

(報告 Y・Y)

★「守秘義務と子どもの声の社会発信」分科会 参加 40名

「子どもの声の社会発信」はチャイルドラインの目的の1つです。子どもとの約束「守秘義務」をどう守り、子どもとの信頼関係を損なわず、誰もが納得のいく理由と方法について考えました。今後のチャイルドラインのルールづくりのスタート研修となりました。

(報告 M・I)

★「子どもについて考えよう」分科会 参加 39名

直接に、子どもの思い、考え、大人に考えてほしいことを、フリーザチルドレンジャパン・東京シュール自由の森学園・社会的養護の当事者参加民間グループ「こもれび」の方たちから聴きました。

大人にわかってほしいというより、こんな思いでいるんだ、ということ一杯きいてほしい」と強調。

そして、グループに分かれて今後の活動にどうかしていくかを基本に話あいました。

(報告 Y・K)

☆「全体会」 報告 参加 220名

清川代表理事の挨拶後、厚労省の方と、文科省の方より分科会の感想等をいただきました。

両氏のお話からは、チャイルドラインの必要性を認識してくださっていることがとても強く伝わってくるコメントで時代がチャイルドラインを必要としているという実感が持てる内容で、活動をしていく上で、大変励みになりました。

今回の、フォーラムにおいて、遠方より集ってくださったチャイルドライン活動をしている仲間たちと、これからも気持ちを一つにして、みんなで子どもを支えていく活動を民間でしていくという意義を感じながら、子どもたちが生きやすい社会にしていくために努力する決意を新たにしました。

(報告 Y・T)

☆これが私たち子どもからの社会へのメッセージ [手紙]

・私たちは祝福されて生まれてほしい。

・私たちは自分であることを否定されたくない。

・私たちはありのまま愛されたい。

・私たちは自分の意志で生きていきたい。

・私たちはどんな暴力も受けたくない。

・私たちはどんな差別もされたくない。

・私たちはおとなと一緒に話合っていきたい。

・私たちは意見を出していきたい。

・私たちは自分に必要なことを知りたい。

・私たちは自分が持っている権利を知りたい。

・私たちが困っている時は手伝ってほしい。

・私たちは温かいご飯を食べ、温かい布団でしっかり守られてねむりたい。

・私たちはゆつくりと育ちたい。私たちの話を聞いてほしい。伝えられない話があることを知ってほしい。

・私たち子どもにはプライバシーがあります。

・私たちが間違っていることを認めてほしい。やり直すことを応援してほしい。

・私たちのいろんな生き方を応援してほしい。

・私たち子どもを一人の人間として大事にしてほしい。

『千葉県こども人権条令を実現する会 子どもの人権意識調査より』